

# 太田川水系における特徴と課題について

平成 20 年 1 月 17 日

国土交通省 中国地方整備局

【資料 1-1 修正箇所対比表】

p. 2 4 ( )		16 1-2 3 11
p. 2 6 ( )		
p. 2 4 ( ) ( )		
p. 3 3 ( )		
p. 4 ( )	(6)	(6)
p. 5 ( )		CO <sub>2</sub>
p. 6 2 ( )		1-2
p. 6 1 ( )		
p. 6 3 ( )		

# 太田川水系における特徴と課題について

項目		現状と意見	特徴と課題
(1) 全体	<p><b>■近年、集中豪雨の発生頻度が増加</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化傾向への対応（集中豪雨）</li> <li>・洪水発生頻度の増加</li> <li>・巨大台風が発生</li> <li>・太田川 川づくりアンケートでも「異常気象への対応」を望む意見</li> </ul>	<p><b>■現在の治水計画には、特に異常気象について考慮されていない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異常気象への対処方法は現在検討中（国土交通省「社会資本整備河川分科会 気候変動に適応した治水対策検討小委員会」）</li> </ul>	
	<p><b>■頻発する洪水被害</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和18年9月洪水、昭和47年7月洪水、平成17年9月洪水など、約30年毎に大出水が発生し、甚大な被害</li> <li>・自由意見では、度重なる浸水経験から「自然災害が頻発」という意見</li> </ul> <p><b>■基本方針では、計画規模1/200、基本高水ピーク流量12,000m<sup>3</sup>/sで設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下流デルタ域は中四国地方唯一の百万都市、政令指定都市である広島市の中心市街地が密集し、高度な都市機能が集積</li> <li>・想定氾濫区域内の資産額は、中国地方の1級河川の中で最も多い</li> <li>・災害対策が「十分である」約2割に対し、「不十分である」が約4割と倍以上の回答</li> <li>・自由意見では、「災害対策が優先」を望む意見</li> </ul>	<p><b>■災害に対する安全度向上が望まれる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下流デルタ域は中四国地方唯一の百万都市、政令指定都市である広島市の中心市街地が密集し、高度な都市機能が集積</li> <li>・広島県の卸・小売業、情報サービス・調査業従事者は他の中国4県の合計に匹敵し、広島県内の約7割は広島市が占める</li> <li>・国内のみならず海外に製品を供給する大手重工業メーカーや大手自動車メーカーが立地</li> <li>・災害により社会経済活動が麻痺すれば、影響は県内だけでなく、国内そして海外にまで及ぶ</li> <li>・河川整備基本方針策定済み水系の内、計画規模1/200の水系は全国で7水系その中の一つが太田川</li> </ul>	
(2) 洪水	<p><b>■基本方針では、河道に流す流量は8,000m<sup>3</sup>/s(玖村地点)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基準地点“玖村”における基本高水流量を12,000m<sup>3</sup>/sとし、河道配分流量は8,000m<sup>3</sup>/s</li> </ul>	<p><b>■河道で負担する流量は8,000m<sup>3</sup>/sが限界</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の地域特性、河道特性などを総合的に勘案して、河川整備基本方針では、工事実施基本計画と比べ、基準地点“玖村”において、計画高水流量は500m<sup>3</sup>/s増加</li> <li>・計画高水位の引き上げ(堤防の嵩上げ)は、氾濫区域の災害ポテンシャルの増大に加え、橋梁などの横断工物や河川管理施設の改築を伴う可能性があり、実現は困難</li> <li>・下流域、下流デルタ域の堤内は密集市街地を形成しており、現在よりも川幅を広くすることは困難</li> <li>・社会面、環境面、経済面等から総合的に判断したところ、8,000m<sup>3</sup>/s河道が最適</li> <li>・下流では堤防が概成されているものの流下能力が不足</li> <li>・中上流部は無堤区間が多いため流下能力が不足</li> <li>・支川でも戦後最大流量が流せない</li> </ul>	
	<p><b>■基本方針では4,000m<sup>3</sup>/s(玖村地点)の洪水調節が位置付けられている</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流域上流の洪水調節施設は一つ。(他に三つのダムがあるが全て発電専用)</li> <li>・温井ダム集水面積は253km<sup>2</sup>。飯室地点上流域面積に占める割合は約23%であり、全体流域に占める割合は約15%</li> <li>・電力ダムを含めたダム機能の見直し</li> <li>・洪水対策として「上流で洪水を貯める」ことを望む回答がある一方、「森林の涵養力を高める」、「環境破壊を危惧」、「ダムの撤去または減少」などの意見</li> </ul> <p><b>■雨の降り方により洪水パターンは異なる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和47年7月洪水は滝山川上流域で多くの雨</li> <li>・平成17年9月洪水では太田川本川上流域で多くの雨</li> <li>・温井ダムは滝山川上流に平成13年に竣工した多目的ダム</li> <li>・自由意見では、ダムに関する記述の中で「ダムの運用」に関する意見</li> </ul>	<p><b>■十分ではない洪水調節施設(洪水調節容量を有するのは温井ダムのみ)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流域上流で4,000m<sup>3</sup>/sを洪水調節する必要がある</li> <li>・太田川上流域では洪水調節容量を持つダムは温井ダムしかない(他の三つのダムは発電専用)なお、立岩ダムは堆砂が進行している</li> <li>・計画規模(200年に1度)の洪水に見舞われた場合、現在の整備状況では下流部でも広く浸水、甚大な被害</li> <li>・森林の涵養力は豪雨の際には効果が期待できない</li> <li>・中上流部は山間狭隘部を流下し、地形上、遊水効果に乏しい</li> </ul> <p><b>■既存の洪水調節施設のみでは、雨の降り方によっては十分効果が発揮されない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太田川に洪水をもたらす降雨パターンは大きく分けては梅雨前線型と台風型</li> <li>・平成17年9月洪水(台風型)のような降雨パターンでは、温井ダムの洪水調節効果は大きな発現が難しい</li> <li>・昭和47年7月洪水では、もしも温井ダム(暫定操作)があったら約84cm水位が低下していたが、平成17年9月洪水では約20cmしか水位は低下しなかった(飯室地点)</li> <li>・更なる効果的なダム運用が望まれている</li> <li>・住民の中には温井ダムの効果に誤解が生じている</li> </ul>	
	<p><b>■観測史上最大の流量を観測し、甚大な被害をもたらした平成17年9月洪水</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成17年9月洪水では、ピーク流量7,200m<sup>3</sup>/sを観測(矢口第1地点)</li> <li>・下流では予防対策により被害が軽減、H17.9洪水では中上流部に浸水被害が集中</li> <li>・中上流部の要修箇所については連続堤の整備などで全体を守ろうとしているのか?</li> <li>・安価で効果的な堤防の整備</li> <li>・災害対策について、H17、H18被災地域に限定すると約7割の住民が「災害対策が不十分」と回答</li> <li>・自由意見では「環境に配慮した治水対策」、「人と自然共存、防災と自然の両立が必要」を望む意見</li> <li>・源流域、上流域、中流域及び下流域の地域の事情に応じた整備が必要</li> <li>・川の歴史に学び、過去を語るものは未来に責任を持つという構えが重要</li> <li>・中上流部の築堤(輪中堤)による内水被害が懸念</li> <li>・地域の歴史、先人の知恵等を踏まえ工法を選定してもらいたい</li> </ul>	<p><b>■平成17年9月洪水 中上流部に被害が集中</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太田川下流では、予防対策により大きく被害が軽減</li> <li>・逃げ場のない、狭隘な谷底平野に点在する集落</li> <li>・流下能力が不足し、急激に水位が上昇</li> <li>・堤防未整備区間は中上流部に集中</li> <li>・繰り返される洪水被害(中上流部)</li> <li>・下流部に比べ費用対効果が相対的に低い中山間地</li> <li>・中上流部では、輪中堤や宅地嵩上げ等、効果的な対策を実施中</li> </ul> <p><b>■もし、雨がもう少し強く降っていたら、下流部も恐ろしい被害</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成17年9月台風14号のとき、もし、大雨がもう少し強く(1.2倍)降っていたら・・・</li> <li>・下流の市街地でも約21km<sup>2</sup>、約6万戸が浸水していた恐れ</li> <li>・平成17年9月台風14号により、他都市では市街地が浸水</li> </ul>	

太田川の現状と課題

治水に関する現状と課題

# 太田川水系における特徴と課題について

項目		現状と意見	特徴と課題
太田川の現状と課題	治水に関する現状と課題	<p><b>■現状と意見</b>                      黒字：現状、赤字：学識懇談会意見、青字：太田川再生プロジェクト意見                      緑字：太田川川づくりアンケート、ピンク字：第1回太田川住民意見を聴く会</p>	<p><b>■特徴と課題</b>                      黒字：良い・優れた内容・現状維持、赤字：悪い・改善すべき内容</p>
		<p><b>(2) 洪水</b></p> <p><b>■古くからまでつくられた河川堤防</b>                      ・下流域の安佐南区や安佐北区、古川周辺は、近年、急速に宅地化が進む                      ・現在の概成された堤防は、まだ、技術基準が定まっていない昭和20年～30年代に築造されたものであり、土の粒度などは必ずしも現在の技術基準に見合ったものではない                      ・堤防の高さは約7mと高く、洪水時は家屋よりも水位が高い                      ・ダムによる流量調整の限界を考慮した堤防の強化                      ・災害対策として、「堤防の強化」を望む回答が約6割で最多                      自由意見では、「地域格差がないように」、「環境に配慮した治水対策」、「人と自然共存、防災と自然の両立が必要」を望む意見                      ・堤防の強化、嵩上げ(現況施設の有効活用)、中上流部の護岸の補強、築堤を望む</p> <p><b>■河川、海の水位よりも低い地盤高</b>                      ・計画高水位、朔望平均満潮位よりも低い堤内地盤高                      ・下水道の流下能力不足により内水氾濫があるのか、また、その対応について、現在の方針があれば教えてもらいたい</p>	<p><b>■安全性の基準を満たしていない多くの堤防</b>                      ・平成17年出水では「はん濫危険水位」ぎりぎりまで水位が上昇(短時間だったため、堤防の内側も外側も幸い大きな被害無し)                      ・下流部の完成堤防区間でも、堤防の安全性の照査の基準を満たしていない区間が続く                      ・堤防高と地盤高の比高差は約7m、破堤した場合は大災害となる</p> <p><b>■川から水が溢れなくても浸水する恐れがある</b>                      ・広島市の中心市街地は、江戸時代以降の干拓により造成された低平地                      ・地盤高は満潮時の海水面より低く、降った雨は下水管や下水ポンプ場を経由しなければ海や川に排水されない                      ・他都市では、下水道の整備水準をはるかに超える時間100mm以上の降雨がたびたび発生                      ・広島市の地下街では浸水に備えた対策が講じられている                      ・広島市では、内水ハザードマップを一部公表</p>
		<p><b>(3) 高潮</b></p> <p><b>■頻発する高潮被害</b>                      ・下流デルタ域は中四国地方唯一の百万都市、政令指定都市である広島市の中心市街地が密集し、高度な都市機能が集積                      ・下流デルタ域は江戸時代から造成された干拓地。地盤高は低くゼロメートル地帯                      ・広島湾奥は地形上、高潮被害を受けやすく、平成の時代になっても平成3年、平成11年、平成16年の高潮災害など被害が頻発                      ・安全があつての環境ではなく、一体となって行うべきである                      ・高潮堤防についても単に堤防を造るといったことは止めてもらいたい                      ・環境にも配慮しつつ、未整備区間の整備を進めてもらいたい                      ・自由意見では、「自然災害が頻発」、「高潮対策の遅れ」という意見</p>	<p><b>■もしも、ひとつでも条件が違っていたら市街地が水没</b>                      ・広島湾の高潮対策は、三大湾(東京湾、伊勢湾、大阪湾)の整備水準に対し著しく遅れている                      ・直轄施工区間における進捗率は計画高潮位対応(T.P.4.4m)で46%、完成堤区間は0%                      ・もし、平成19年8月の台風5号が、平成16年の台風18号と同じ規模・コース(偏差)であったら、市街地が水没                      ・公園整備と一体となった高潮堤防整備を実施中</p>
		<p><b>(4) 地震</b></p> <p><b>■軟弱地盤上に築造された堤防などの河川管理施設</b>                      ・下流デルタ域は、軟弱な地盤                      ・軟弱な地盤の上に堤防などの河川管理施設を築造                      ・耐震についても考えてもらいたい                      ・自由意見では、「自然災害が頻発」という意見</p> <p><b>■軟弱地盤上に稠密に形成された市街地</b>                      ・下流デルタ域に中四国地方唯一の百万都市である広島市の市街地を形成                      ・現況施設の本来持つ機能の有効活用が重要</p>	<p><b>■地震により、河川管理施設が被災すると浸水被害が発生</b>                      ・阪神・淡路大震災(平成7年1月17日)では、地盤の液状化による堤防の沈下など、河川管理施設に甚大な被害が発生                      ・地震発生前の降雨は、堤防の甚大な被害を助長                      ・下流デルタ域は、軟弱な地盤                      ・計画高水位や朔望平均満潮位よりも低い地盤高                      ・堤防の耐震対策を実施中</p> <p><b>■地震により、交通網が寸断される恐れ</b>                      ・太田川下流域の狭い低平地は、市街地や商工業地として稠密に利用                      ・下流デルタ域は中四国地方唯一の百万都市、広島市の中心市街地が拡がり、高度な都市機能が集積、沿岸部には工業地帯を形成                      ・道路が使用不能に陥り、緊急時の物資輸送ができなくなる事態が想定される                      ・中心市街地では経済活動が停滞、早期復興に支障となる恐れもある                      ・太田川放水路では、緊急河川敷道路を整備中</p>
		<p><b>(5) 維持管理</b></p> <p><b>■日常からさまざまな河川管理を実施</b>                      ・日常の河川巡視、定期的な堤防除草等を実施                      ・大芝水門、祇園水門をはじめとした施設の老朽化や一部護岸の空洞化が進行                      ・管理に際しては基準を設定し、それに基づき管理してもらいたい                      ・現況施設の本来持つ機能の有効活用が重要                      ・強度上問題のある護岸の補強や流下阻害となる樹木の伐木を望む                      ・自由意見では、「河道内樹木の伐採」を望む意見</p> <p><b>■不法に係留された船が多くある</b>                      ・規制を行っているが、まだまだ多い不法係留船                      ・自由意見では、「不法係留の改善」、「不法係留船の撤去」を望む意見</p> <p><b>■太田川には多くの橋梁があり、洪水の流れを阻害する恐れ</b>                      ・数多くの橋梁が架橋されている                      ・洪水の流下に支障となる恐れがある橋梁が存在                      ・廢線となった区間の橋脚の撤去を望む</p> <p><b>■デルタにおいては洪水時分派して流下</b>                      ・市内派川(旧太田川)への分派量が不明                      ・大芝水門建設当時から分派量は変更</p>	<p><b>■365日機能を発揮できる河川管理が不可欠</b>                      ・砂州や河道内樹木は、生物の生息・生育環境や景観面から求められるが、土砂の堆積や樹木群の繁茂は流水阻害の要因となることもある                      ・老朽化に伴い十分に機能が発揮できなくなる                      ・護岸などの河川管理施設については日常の管理の他、定期的に出水期前の点検を実施、しかし、延長が長く全川に必要な機能を同時に満たすことが困難                      ・定期的な樹木伐採を実施中、しかし、樹木の繁茂区域が広く、全川で同時に伐関することは困難</p> <p><b>■不法係留船による流水阻害が懸念</b>                      ・減少傾向にあるが、皆無ではない不法係留船                      ・不法係留船は治水上の支障、生活環境上の支障、他の河川使用への支障、河川景観への支障という問題を抱える</p> <p><b>■流水阻害による不測の水位上昇が生じる恐れ、場合によっては流失し甚大な被害</b>                      ・橋梁は川で分断されている地域を結ぶものとして重要                      ・太田川国管理区間に架橋されている橋梁は193橋、その内、洪水の安全な流下を妨げると考えられる橋梁は92橋存在(47.7%)                      ・流水阻害による不測の水位上昇が生じる恐れがある</p> <p><b>■流れが複雑な市内派川(洪水時)</b>                      ・潮位の影響を受け、河川水の流れが複雑                      ・大芝・祇園水門建設時と異なる流量配分</p>
<p><b>(6) その他</b></p> <p><b>■防災に資する情報等を提供、意識啓発活動を行っている</b>                      ・安全な避難場所の確保が必要                      ・安全正確のため、カメラを設置し非常時に関係地域のテレビに接続放映してもらいたい                      ・住民に分かりやすい洪水発生頻度の説明                      ・「安心と無関心」危機意識が低下しており、PRが必要                      ・「防災」から「防災」にフィードバックしていくようなシステムが必要                      ・災害対策の必要性に関し、約4割の人が「よくわからない」と回答                      ・自由意見では、「地域での防災意識の向上が必要」を望む意見</p>	<p><b>■さらなる地域の防災力向上が望まれている</b>                      ・ハザードマップ、浸水想定区域図の作成支援、及び洪水、高潮氾濫シミュレーションの作成、公表                      ・その他、関係機関への適切な防災情報の提供                      ・広島市が一部の地区でハザードマップ、浸水想定区域図を作成、公表                      ・中上流域では高齢化、過疎化が進行                      ・地域住民に十分な理解が得られていない                      ・これからは、公助だけでなく、自助・共助が重要</p>		

# 太田川水系における特徴と課題について

項目		現状と意見	特徴と課題	
太田川の現状と課題	環境に関する現状と課題	(1) 自然環境	<p><b>現状と意見</b>                      黒字：現状、赤字：学識懇談会意見、青字：太田川再生プロジェクト意見                      緑字：太田川川づくりアンケート、ピンク字：第1回太田川住民意見を聴く会</p> <p><b>■いろいろな生物が生息・生育する太田川</b>                      ・日本海側との河川との争奪により日本海由来の生物も混じっており、生物の種類が多い                      ・下流域にはアユの産卵場が存在する他、淀み、中州、樹林帯など多様な環境を構成                      ・上流の西中国山地を含む環境はよいが、下流ほどひどい                      ・アユの漁獲量が減少傾向、水生生物の種数は変わらないが確実に減少                      ・浮石が減少し、はまり石が増加、水生昆虫は生息の限界、河川の攪乱が必要                      ・太田川の環境について、「大変満足している」、「やや満足している」という回答が半数以上                      ・環境を改善・向上には、「多くの生物が生息できる川にすること」を望む回答が約7割で最多                      ・発電や河川改修がもたらした影響を正しく学ぶべき</p>	<p><b>特徴と課題</b>                      黒字：良い・優れた内容・現状維持、赤字：悪い・改善すべき内容</p> <p><b>■おおむね良好な自然環境が残る太田川</b>                      ・重要な種として、魚類16種、鳥類：24種、哺乳類：4種、両生類・爬虫類：6種、昆虫類26種、底生動物5種、植物20種を確認                      ・山を刻み流れる上流部、谷あいで蛇行を繰り返す中流部、下流部にはアユの産卵場が存在                      ・アユやサツキマスは河口～鱒溜ダム(約76km)まで遡上可能                      ・発電取水により、中上流部の約60kmの区間で減水区間が発生、自然環境や景観への影響が懸念</p>
		(2) 河川利用	<p><b>■放水路を中心に干潟が残っているが、市内派川にはヘドロが堆積</b>                      ・放水路を中心に干潟や良質な砂質河床が残っている。一方、市内派川にはヘドロが堆積                      ・上流の西中国山地を含む環境はよいが、下流ほどひどい                      ・市内派川への分派量が不明</p>	<p><b>■干潟を守ることや市内派川の環境改善が必要</b>                      ・現在でも、放水路を中心に良好な干潟が残る、塩生植物群落など特徴ある植物が生育                      ・一方、市内派川へのヘドロの堆積、黒色化                      ・干潟再生に向けた取り組み ～太田川応用生態工学研究会～                      ・底質改善に関する取り組み                      ・複雑な河川水の流れ</p>
		<p><b>■生活の一部であった太田川</b>                      ・かつて、太田川は物資の輸送経路として大きな役割を果たした                      ・市内派川には、江戸期の舟運が盛んだった往時を偲ぶせる歴史的構造物が存在                      ・中上流域では礫を石積みにも利用、特徴ある景観を形成、                      ・また、集落と川が近接し、身近に水に触れることが可能                      ・自由意見では、「水辺の賑わいを取り戻す」という意見の他、「川を観光に活かす」という意見                      ・発電や河川改修がもたらした影響を正しく学ぶべき</p>	<p><b>■希薄化する川との繋がり、水辺の賑わいを取り戻すことが求められている</b>                      ・かつては、太田川は物資の輸送経路として重要だった                      ・現在では、水上バス、雁木タクシーなど形を変えた舟運が行われている                      ・下流デルタ域には往時を偲ぶせる景観が残る                      ・中上流域では、太田川の礫を利用した石垣を数多く見ることが出来る</p>	
		<p><b>■いろいろな目的で利用される河川空間</b>                      ・河川敷はイベントやレクリエーションの場として多くの人が利用                      ・かつては市内派川でも泳ぐ子どもが多かった                      ・下流デルタ域ではシジミ漁が盛ん                      ・自由意見は多様な要望                      ・地域の特性に応じた整備を求める意見                      ・太田川の環境について、「大変満足している」、「やや満足している」という回答が半数以上                      ・環境の改善・向上に関し、「自然と親しめる場を整備すること」、「川で泳いだり水で遊んだり出来る場を整備すること」を望む回答も約4割と多い                      ・「水質、底質を改善し、安全に水遊び、自然観察等のできる川を取り戻してほしい」、「親水・憩い・癒しの場となっている」、「河川敷を憩い・スポーツの場として利用したい」、「遊歩道・自転車道の整備」、「駐車場整備」、「利用者のマナーが悪い」等、意見が多様化                      ・「上流・中流・下流の川の魅力を活かす」ことを望む意見も                      ・自由意見には、環境整備について「地域格差がないよう」に」との意見の他、                      ・また、「ゴルフ・漁業等、特定利用への批判」への意見                      ・<b>便益施設の設置とそれに関するマップを作成してもらいたい</b></p>	<p><b>■さらなる利活用を期待</b>                      ・上流部では豊かな自然が残る、変化に富んだ自然景観が存在、四季を通じて観光客が訪問                      ・中流部では、大小の瀬や淵が多数存在し、アユ釣りが盛ん、夏には水遊びを目的として多くの家族連れが訪問                      ・地域の重要な観光資源になっている温井ダム                      ・下流部に形成された広い河川敷では親水空間が整備済み、各種イベントを数多く開催                      ・下流デルタ域の沿川にある原爆ドーム、平和記念公園などは、平和都市広島をイメージする特別な空間                      ・下流デルタ域では、ハゼ釣りやシジミ採り等、市内派川の河岸緑道は散策等の市民利用が盛ん                      ・市内派川へのヘドロの堆積、黒色化                      ・かつては市内派川でも泳ぐ子ども達が数多くいたが、現在では泳ぐには好ましくない水質                      ・ホームページやパンフレット等を通じて各種情報を発信</p>	

# 太田川水系における特徴と課題について

項目		現状と意見 黒字：現状、赤字：学識懇談会意見、青字：太田川再生プロジェクト意見 緑字：太田川川づくりアンケート、ピンク字：第1回太田川住民意見を聴く会	特徴と課題 黒字：良い・優れた内容・現状維持、赤字：悪い・改善すべき内容	
太田川の現状と課題	環境に関する現状と課題	(3) 景観	<p><b>■中上流部と下流部、風景が二分される太田川</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中上流域では狭隘な谷底平野に集落が点在、支川合流部に主要な町が存在</li> <li>・三篠川合流点に位置する可部から下流は市街地が広がる</li> <li>・市内派川には、江戸期の舟運が盛んだった往時を偲ばせる雁木や常夜燈等の歴史的構造物が存在</li> <li>・基町地区(元安川)には平和都市広島を象徴する原爆ドームや平和記念公園が存在</li> <li>・不法保留が多い</li> <li>・太田川の環境について、「大変満足している」、「やや満足している」という回答が半数以上</li> <li>・自由意見でも、「自然景観、都市景観として美しい太田川にしたい」との意見</li> <li>・太田川の要所となる地点での写真データ(1回/年)の蓄積・保管</li> </ul>	<p><b>■中上流部で自然的景観、下流部では都市的景観が形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・可部を境に上下流で景観が大きく異なる(上流側：自然的景観、下流側：都市的景観)</li> <li>・山間狭隘部に点在する集落(中上流部)</li> <li>・原爆ドームと元安川、平和記念公園は広島の代表的景観であり、平和都市「ひろしま」の象徴</li> <li>・基町環境護岸は景観に考慮した先駆的事例</li> <li>・不法保留船は、都市景観を悪化させる要因となっている</li> </ul>
		(4) 古川の河川整備	<p><b>■多自然型川づくりの先駆的事例であり、地域活動が盛んな古川</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和49年に全国に先駆け多自然型川づくりを実施</li> <li>・現在では、都市域の貴重な水辺空間を形成</li> </ul>	<p><b>■地域住民による河川愛護活動が盛ん</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和54年に結成された「せせらぎ会」をはじめ、地域住民による河川愛護活動が盛ん</li> </ul>
		(5) 水の都ひろしま構想	<p><b>■個性と魅力ある川づくりに取り組んでいる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個性と魅力ある川を目指し、平成15年に、市民と行政(国・県・市)の協働により「水の都ひろしま構想」を策定</li> <li>・自由意見には、「市民の貴重な財産・シンボル」、「自慢・誇れる川づくり」、「川を観光に活かす」という意見</li> </ul>	<p><b>■さらなる個性と魅力の創出が求められている</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6本の川が分派する下流デルタ域は、市街地に占める水面面積の比率が約13%と大。古くから水の都</li> <li>・市街地に占める水面面積は、全国でも1,2位を争う有数の河川</li> <li>・平成15年に「水の都ひろしま構想を策定」</li> <li>・元安川に快適な都市環境の創出を考慮した親水護岸として整備(平成8年度)し、「灯籠流し」等多くの市民が活用</li> <li>・水辺の様々な都市機能や観光施設等を相互に河岸でつなぐためのネットワーク化を図るため、橋梁部分のアンダーパス化を実施</li> <li>・規制緩和の社会実験の実施</li> </ul>
		(6) 栄養塩の供給	<p><b>■中国山地に源を発し、広島湾に注ぐ太田川</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林の栄養塩は川を通じて海へ流れる</li> <li>・林業の衰退(昭和60年以降、素材(木材)生産量が減少)</li> <li>・下流デルタ域ではシジミ漁、広島湾ではカキ養殖が盛ん</li> <li>・自由意見にも流域全体の取り組みとして「山、川、海の三位一体の対策が必要」を求める声</li> </ul>	<p><b>■森・川・海の連携が求められている</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海域へは、太田川の流水に加え土師ダム(江の川)からの分水による流水も流入</li> <li>・高瀬堰に流入する流水の約1割は土師ダム(江の川)からの流水</li> <li>・バランスのとれた栄養塩の供給</li> <li>・平成19年度よりケイ酸塩の測定を開始</li> </ul>
		(7) 環境学習	<p><b>■太田川は環境学習の場として大いなる期待</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山を育てることが川を守ることに繋がるのではないかと</li> <li>・川の利用、恵みの学習が困難になってきている</li> <li>・子供たちにどのように伝えていくのか</li> <li>・災害や長いスパンでの川との付き合い方について、住民も学べる工夫を行ってほしい</li> <li>・環境の改善・向上には、「自然と親しめる場を整備すること」、「川で泳いだり水で遊んだり出来る場を整備すること」を望む回答も約4割と多い</li> <li>・自由意見には、「自然とふれ合い、学べる場としたい」という意見</li> <li>・自然を大切にすること、そのためにはガキ大将、川ガキが必要</li> <li>・ワンドなど、淡水魚の増殖や子どもたちの興味をひく整備を望む</li> </ul>	<p><b>■昔は川が遊びや学びの場であったが、最近では川で遊び、学ぶことが少ない</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「川」は、「感性・知識・行動力」を育むためにも。子どもたちにとって魅力あるフィールド</li> <li>・昔ほど川が活用されていない</li> <li>・水辺の楽校を整備している</li> <li>・滝山川ふるさとの川整備事業を実施している</li> </ul>

# 太田川水系における特徴と課題について

項目		現状と意見	特徴と課題
太田川の現状と課題	(1) 河川水の利用	<p><b>■ 広域、かつ、いろいろな用途で使われる太田川の水</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>太田川の流水は広島市だけでなく、流域外の呉市や島しょ部など広域に配水</li> <li>自由意見では、「市民生活を支える太田川の水」への感謝、「水の安定供給」を望む意見</li> </ul> <p><b>■ 古くから水力発電が盛ん</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>流域上流には、規模の大きい三つの発電専用ダムがある</li> <li>発電専用の三つのダムは古く、閉鎖すればよい</li> <li>発電や河川改修がもたらした影響を正しく学ぶべき</li> <li>自由意見では、「減水区間の改善」を望む意見</li> </ul>	<p><b>■ 市民生活、経済活動に不可欠な太田川の水</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>太田川の流水は広島市だけでなく、流域外の呉市や島しょ部など広域で利用</li> <li>土師ダム(江の川)からも分水</li> <li>広島市の水道取水量の9割、呉市(流域外)の水道取水量の約8割は太田川から取水</li> <li>太田川の流水は、発電用水、工業用水、水道用水、農業用水など、いろいろな用途で利用</li> <li>下流デルタ域は工業地・住宅地が密集していることから、都市用水の利用が多い</li> <li>中国地方の経済を支える太田川の水</li> <li>もしも、太田川からの水の供給が止まると、広島都市圏だけでなく、中国地方全域に大きな影響が及ぶ</li> <li>呉市で水道管の破損による断水が発生、太田川の水が少なくなっても断水と同じ状況が起こる可能性がある</li> <li>平成14年渇水では、温井ダムにより取水制限を回避</li> </ul> <p><b>■ 市民活動、経済活動を支えるクリーンなエネルギーである水力発電が盛ん</b></p> <p><b>しかし、減水区間が発生</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水力発電は暮らしを支えるクリーンエネルギーとして重要</li> <li>CO2を発生させず、市民活動、経済活動を支える一方、中上流部の約60kmの区間で減水区間が発生、自然環境や景観への影響が懸念</li> </ul>
	(2) 水質	<p><b>■ 水質はおおむね良好</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上流から下流まで概ね環境基準を満足している</li> <li>源流域(中津谷川～榑床ダム)で白濁水が発生している</li> <li>水質監視・測定・評価(生物指標、安全性、レクリエーション)</li> <li>下水道の水処理方法は塩素処理である</li> <li>都市化に伴う生活排水の増加</li> <li>太田川の水質改善・向上には、「これからも良好な水質を保つこと」を望む回答が約7割と多い</li> <li>自由意見では、「下水道整備を望む」意見や、「自然の浄化作用を活かす」意見</li> <li>太田川の水はすばらしい水である</li> </ul>	<p><b>■ 良好な水質を維持することが必要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>太田川 川づくりアンケートでは、「これからも良好な水質を保つこと」を望む多くの声!</li> <li>太田川の水は「日本の名水100選」にも選定</li> <li>流域上流で低い、公共下水道の普及率</li> </ul>
	(3) その他	<p><b>■ 意外と知られていない太田川の水利用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「太田川の水が広域的かついろいろな用途で利用されていること」について、約2割が今回はじめて知ったと回答</li> </ul>	<p><b>■ より多くの住民に太田川のことを知ってもらうことが重要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住民に十分に理解されていない</li> <li>太田川 川づくりアンケートでは、太田川の水が広域的かついろいろな用途で利用されていることについて、約2割の方が「今回はじめて知った」と回答</li> </ul>

# 太田川水系における特徴と課題について

項目		現状と意見	特徴と課題
		黒字：現状、赤字：学識懇談会意見、青字：太田川再生プロジェクト意見 緑字：太田川 川づくりアンケート、ピンク字：第1回太田川住民意見を聴く会	黒字：良い・優れた内容・現状維持、赤字：悪い・改善すべき内容
太田川の現状と課題	(1) 計画対象区間	<b>■河川整備計画では国管理区間が対象</b> ・出来る範囲で国管理区間以外についても整備計画に盛り込むよう検討すべき ・自由意見でも、流域全体での取り組みに関し、「山、川、海の三位一体な対策が必要」という意見	<b>■川は、山から海まで繋がっている</b> ・国管理区間だけに限らず、流域全体で考えていくことが求められている
	(2) 森林	<b>■荒廃する森林(特に人工林)</b> ・広域に占める人工林 ・人工林を支える経済活動が必要 ・地域内の資源を利用した河川整備 ・有機質材料の利用 ・中上流域の高齢化、過疎化、産業構造の変化に伴う経済の衰退 ・森林の荒廃	<b>■林業の衰退と併せた地域活力の低下</b> ・中、上流域では高齢化、過疎化や産業構造の変化により、林業が衰退し人工林も荒廃している ・森林の荒廃が進み、系統的に管理ができていない ・地域資源として木材等の有効利用が普及していない
	(3) 沿岸域	<b>■沿岸域の現状は埋め立て</b> ・かつては干拓、現在では埋立てにより平地を造成 ・かつては干潟でハマグリが採捕できた ・広島湾ではカキ養殖が盛ん	<b>■環境が悪化していく沿岸域</b> ・沿岸域の現状は埋立て ・古くは干拓、現在では埋立てによる干潟面積の減少 ・藻場の減少 ・広島湾奥部沿岸でのヘドロ堆積 ・滞留域での有機物の蓄積、分解で貧酸素水域が発生
	(4) 不法投棄	<b>■景観を損ねる不法投棄</b> ・ゴミ等の不法投棄が多い ・クリーン太田川事業の充実 ・社会全体で環境倫理を徹底すべきである ・自由意見でも、「ゴミ等の不法投棄が多い」との意見 ・清掃活動に積極的に関与してくれるグループをつくる必要がある	<b>■まだまだ多い不法投棄</b> ・洪水時の流下阻害や景観悪化などの問題が生じている ・「ゴミを出さない、捨てない、拾う」意識の向上 ・クリーン太田川事業を実施
	(5) 連携・市民活動	<b>■水とふれあい、賑わいをもたらす活動への支援・連携を実施</b> ・下流デルタ域では、水辺の賑わいをもたらす活動への支援を実施 ・水辺のオープンカフェの開業 ・市民団体が基町環境護岸のシンボルであるポプラの木の維持管理とその周辺の清掃を実施 ・産学官連携による太田川底質改善に関する取り組み ・自由意見には「川を観光に活かす」、「自慢・誇れる川づくり」を望む意見 ・道路、林野、港湾等との連携（垣根を越えた斬新な議論が必要）	<b>■賑わいのある水辺創出が期待されている</b> ・地域住民の活動をより行政が側面から支援することが期待 ・規制緩和の社会実験の実施 ・泳げ遊べる太田川の復活 ・活動を通じ河川愛護の輪を広げる
	(6) 情報提供	<b>■さまざまな太田川に関する情報を発信</b> ・太田川の水量、水質等データの情報公開 ・自由意見では、「もっと住民に様々な情報提供を望む」意見 ・情報公開に関し、さらなる透明性を望む ・情報の開示について、見直しも含め、毎年どのように実施されたか県民にわかるよう報告してもらいたい ・ダム放流について、どこ地区は何時頃増水しますと、地域と時間を放送してもらいたい	<b>■さらなる広報活動</b> ・事務所ホームページ、GoGi通信等で情報提供を実施 ・イベントの開催やイベントに関する情報発信
	(7) その他	<b>■意見集約のあり方</b> ・海岸環境に関し広島沿岸部の意見集約は実施するのか ・さらなる透明性、より多くの人が参加できるよう工夫を望む ・国土交通省だけのスタッフではなく、大学専門部会との業務提携など 専門分野を含めた幅広い計画書作成を望む	<b>■より積極的に意見を聴くことを期待</b> ・意見聴取に際しては、透明性、公平性については十分確保 ・意見集約の方法、時期 ・太田川河川整備懇談会、ホームページ、オープンハウス等により住民から意見聴取 ・関係住民からの意見聴取として、太田川 川づくりアンケートも活用